

【2. スマートハウス, スマートグリッド分野における標準化の課題】

丹 康雄（北陸先端科学技術大学院大学）

追加質問可（2012-12-20 まで）

概要：

家庭においてエネルギーマネジメントや多様な制御を行うスマートハウスでは様々な機器が接続されるため、さまざまな分野の企業の協力が必要となるわけであるが、日本においてはアメリカのNISTのように強かに旗をふりこれら多様な分野の企業をとりまとめるような機関がない。日本がこの分野の国際競争力を高めるためには、アメリカ同様なリーダーシップをもつ中心的機関が必要であり、アメリカとの標準化環境の違いを認識しさまざまな企業文化の中で活躍できる人材を育成していくことが求められる。

Q. この分野の標準化人材を育成するにはどのようなことがポイントになるだろうか。

A. さまざまな会議に“うまく”出席すること。これをプログラムして作成することは困難。

理想的には以下のような環境ができれば自ずと人材育成も進むのではないが。

- ・ 情報処理と情報通信の両方を扱う“情報通信省”のような行政組織をつくる
- ・ その下にNISTのような国益を考える団体をつくり引っ張らせる。
- ・ その団体にカルチャーの異なる民間団体を集め、民間の力を発揮できるようにし、政権が変わってもポリシーを維持できるようにする。

Q. スマートシティはどこまで進むだろうか？あるいはどうなっていくだろうか？

A. さしあたりエネルギーマネジメントのことが中心となって進むであろうが、本来のスマートシティは交通・流通や防犯、健康・医療、教育といった広い分野でのソリューションを与えるものであり、そうした形での実現を可能とするためには、クラウドの中のしくみを中心としたサービスプラットフォームの開発が重要な役割を担う。

ISOにおいて、スマートシティの評価尺度に関する議論も始まっているが、シティ全体として捉えるのはまだこれからの課題であり、現状は要素ごとにバラバラに取り組んでいる状況。

しかし、一方でGoogleが行なっているように実世界のデータをクラウドに取り込んでゆく動きも活発化しており、将来そちらに向かうことは確かであろう。

Q. 発表では、アメリカと日本についての話だったが、欧州での状況を簡単に教えてほしい

A. 欧州はデジュールの国際標準化組織を活用してうまく立ち回っている。単に一国一票制のもとで国の数が多いというだけでなく、ETSI、CENELEC、CENがそれぞれITU、IEC、ISOに対して有している影響力や関係は極めて強い。日本を含むアジアにはこれに匹敵する組織は存在していないし、米国は一国でこれに立ち向かおうとしていることもあり、同じ土俵のライバルはいない感がある。

また、国際標準化団体の中での立ち回りもうまく、スマートグリッドでも、言い方は悪いかもしれないが米国にドラフトを用意させ、自分たちの都合に合わせて上書きしたものを通そうとしているようにも見える。

一方で、各国ごとに電力システムや通信インフラの事情も異なるため市場規模の小さな規格が乱立しがちで、また、欧州の企業だけで市場競争力を持つ技術を立ち上げることが難しいという事情もある。純粋に電力網としてのスマートグリッドという観点では先進事例が多いものの、エネルギーマネジメント以外の分野も含めた観点では米やアジア（日、中、韓）の方が前に出ようとしているように感じられる。